



学校法人 甲南女子学園

2021年度事業報告

目次 Contents

I . 法人の概要

- 02 建学の理念等
- 03 学校法人の沿革
- 04 設置する学校の状況
- 05 学園役員（理事・監事）の概要
- 05 評議員の概要
- 06 教職員の概要

II . 事業の概要

- 07 2021年度の主要な取組み
甲南女子学園創立100周年記念事業／第5次中期計画の推進／
新型コロナウイルス感染症への対応／
大学ガバナンス改革について
- 11 学科・研究科の取組み
- 14 大学の取組み
- 20 中学校・高等学校の取組み

III . 財務の概要

- 23 2021年度決算の概要
事業活動収支計算書の概要
資金収支計算書の概要
貸借対照表の概要
- 27 財務比率の推移
事業活動収支計算書関係比率
貸借対照表関係比率

建学の理念等

甲南女子学園の歩み

甲南女子学園は企業家でありながら教育にも広く力を尽くした安宅彌吉（あたく・やきち）により、1920年（大正9年）に「甲南高等女学校」として創立されました。その後変遷を経て、1964年（昭和39年）に甲南女子大学が開学し、中学校・高等学校・大学・大学院で構成される総合学園に発展し、現在の甲南女子学園の姿に至ります。

本学園は創立以来、建学の理念の実現につとめ、誠実で品位ある女性を数多く育て、世におくり、社会の信頼と期待にこたえてきました。今後も、人のために尽くし、世界の平和と人類の福祉に貢献できる女性の育成に努めます。

建学の理念

建学の精神

まことの人間をつくる

校訓

清く 正しく 優しく 強く

教育方針

全人教育 個性尊重 自学創造

教育理念

甲南女子大学の使命

建学の理念を基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性を育成する

- 人としての教養と常識を基本に、確かな専門知識を養い、社会で活躍できる基礎力を育てる
- 内から輝く個性を磨き、人間愛を持って他に尽くす、思いやりの心を育てる
- 自ら学び考えることで主体性と創造性を育み、実践的な知識・技能・判断力および学術的探究心を育てる

甲南女子中学校・高等学校の使命

建学の理念を基盤に、知性品格を備え、人生や社会に対して前向きに取り組む自立した女性を育成する

- 人としての教養と常識を基本に、中等教育にふさわしい学力を養い、個性や適性に応じた進路志望を自覚し実現する力を育てる
- 内から輝く個性を磨き、人間愛を持って他に尽くす、思いやりの心を育てる
- 自ら学び考える姿勢を育み、社会の中で人と協同して、主体的に生きていく力を育てる

学生がめざす姿

- 自分自身に誠実であり、他者に対しても誠実なコミュニケーションができる
- マナーを身につけ、正しいことを貫く意志を持ち、しなやかに対応することができる
- 広い視野を持ち、自分と異なるものを理解・受容し、他のために努力することができる
- 失敗を恐れず、チャレンジする勇気とパワーを発揮することができる

学校法人の沿革

1920（大正 9）年	甲南高等女学校設立認可
1921（大正10）年	財団法人甲南学園高等女学校設立認可
1942（昭和17）年	旧制専攻科設置発足
1947（昭和22）年	甲南女子中学校併設認可
1948（昭和23）年	新制女子高等学校設立認可 財団法人の名称を財団法人甲南女子学園と改称
1950（昭和25）年	新制専攻科設置発足
1951（昭和26）年	財団法人を学校法人甲南女子学園に組織変更認可
1955（昭和30）年	甲南女子短期大学設置認可、甲南女子短期大学開学
1964（昭和39）年	甲南女子大学開学、大学を東灘区本山町田中より現在地に移転 文学部を開設
1968（昭和43）年	甲南女子中学校・高等学校を東灘区本山町田中より現在地に移転
1974（昭和49）年	短期大学を短期大学部へ名称変更
1975（昭和50）年	大学院文学研究科修士課程を開設 文学部に人間関係学科を開設
1977（昭和52）年	大学院文学研究科博士後期課程を開設
2001（平成13）年	人間科学部を開設
2002（平成14）年	甲南女子短期大学部を廃止
2004（平成16）年	文学部人間関係学科を廃止
2005（平成17）年	大学院人文科学総合研究科を3専攻9コースに再編
2006（平成18）年	文学部にメディア表現学科、人間科学部に総合子ども学科を開設
2007（平成19）年	甲南女子大学看護リハビリテーション学部を開設
2008（平成20）年	甲南女子中学校・高等学校に普通科新コースを設置 Sアドバンスコースとスタンダードコースの2コース体制となる
2010（平成22）年	文学部フランス語フランス文学科を廃止
2011（平成23）年	人間科学部人間教育学科を廃止
2012（平成24）年	大学院看護学研究科修士課程看護学専攻を開設 甲南女子中学校・高等学校新校舎竣工
2018（平成30）年	医療栄養学部を開設 大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻を開設
2020（令和 2）年	国際学部を開設

設置する学校の状況

学校・学部・学科等の学生（生徒）数の状況（2021年5月1日現在）

学校名	研究科・学部	専攻・学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数	
甲南女子大学	大学院 人文科学総合研究科 博士後期課程	言語・文学専攻	3	0	9	0	
		心理・教育学専攻	3	0	9	0	
		社会・文化環境学専攻	3	0	9	1	
	大学院 人文科学総合研究科 博士前期課程	言語・文学専攻	9	1	18	1	
		心理・教育学専攻	13	9	26	16	
		社会・文化環境学専攻	9	1	18	3	
		看護学研究科博士後期課程	看護学専攻	3	1	9	10
		看護学研究科博士前期課程	看護学専攻	5	2	10	7
		大学院合計		48	14	108	38
	甲南女子大学	学部	日本語日本文化学科	80	94	320	371
			英語文化学科※2	—	—	240	293
多文化コミュニケーション学科※2			—	—	140	167	
メディア表現学科			70	83 (2)	280	339	
合計			150	177 (2)	980	1170	
国際学部		国際英語学科	110	114	220	227	
		多文化コミュニケーション学科	80	97	160	185	
		合計	190	211	380	412	
学部		心理学科	90	102	360	416	
		総合子ども学科	150	152	600	649	
		人間科学部	文化社会学科	80	83 (1)	320	376
	生活環境学科	80	90	320	387		
	合計	400	427 (1)	1600	1828		
看護リハビリテーション学部	看護学科	100	103	400	430		
	理学療法学科	60	53	240	243		
	合計	160	156	640	673		
医療栄養学部	医療栄養学科	80	63	320	294		
	合計	80	63	320	294		
	学部合計	980	1034 (3)	3920	4377		
	大学合計	1028	1048 (3)	4028	4415		
甲南女子高等学校	全日制課程	普通科	180	171	540	527	
甲南女子中学校			180	189	540	565	
	総合計		1388	1437(8)	5108	5507	

(※1) () 内は編入学者数で入学者数の内数

(※2) 2020年度募集停止

収容定員充足率の推移（毎年度5月1日現在）

学校名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
甲南女子大学 学部	1.16倍	1.15倍	1.16倍	1.14倍	1.12倍
甲南女子大学 大学院	0.33倍	0.44倍	0.46倍	0.43倍	0.35倍
甲南女子高等学校	0.98倍	0.95倍	0.96倍	0.99倍	0.98倍
甲南女子中学校	1.04倍	1.06倍	1.06倍	1.04倍	1.05倍

学園役員（理事・監事）の概要

2022年3月31日現在

役職名	氏名	就任年月日(※)	役職名	氏名	就任年月日(※)
理事長	中内 仁*	2010.7.10	理事	奈良山 和子*	2019.7.10
副理事長	森下 榮生*	2014.7.10	理事	青井 さゆき*	2017.7.10
理事	森田 勝昭	2016.7.11	理事	樽本 和美*	2019.7.10
理事	岡田 明	2015.4.1	理事	長坂 悦敬*	2020.7.10
理事	信時 哲郎	2021.4.1	理事	小西 新右衛門*	2018.7.10
理事	野崎 志帆	2020.4.1	理事	角 和夫*	2017.7.10
理事	原田 隆司	2019.4.1	理事	宮原 秀夫*	2017.7.10
理事	秋元 典子	2018.4.1	理事	平山 一哉*	2015.7.10
理事	宇佐美 眞	2018.4.1	理事	下村 雅一	2014.7.10
理事	竹井 誠	2017.4.1	監事	太田垣 英士*	2021.7.10
理事	近藤 三津枝*	2013.7.11	監事	阿部 奈穂子*	2019.7.10

(※)理事及び監事の就任年月日を記載

定数 理事14～20名・監事2～3名

*学外の理事

■役員賠償責任保険契約について

- ・私立学校法に従い、2020年4月1日より私大協役員等賠償責任保険契約に加入<2021年度更新済>
(団体契約者：日本私立大学協会 記名法人：学校法人甲南女子学園 個人被保険者：上記役員等)
- ・支払い対象とならない場合として、法律違反に起因する事由等の定めを記載

評議員の概要

2022年3月31日現在

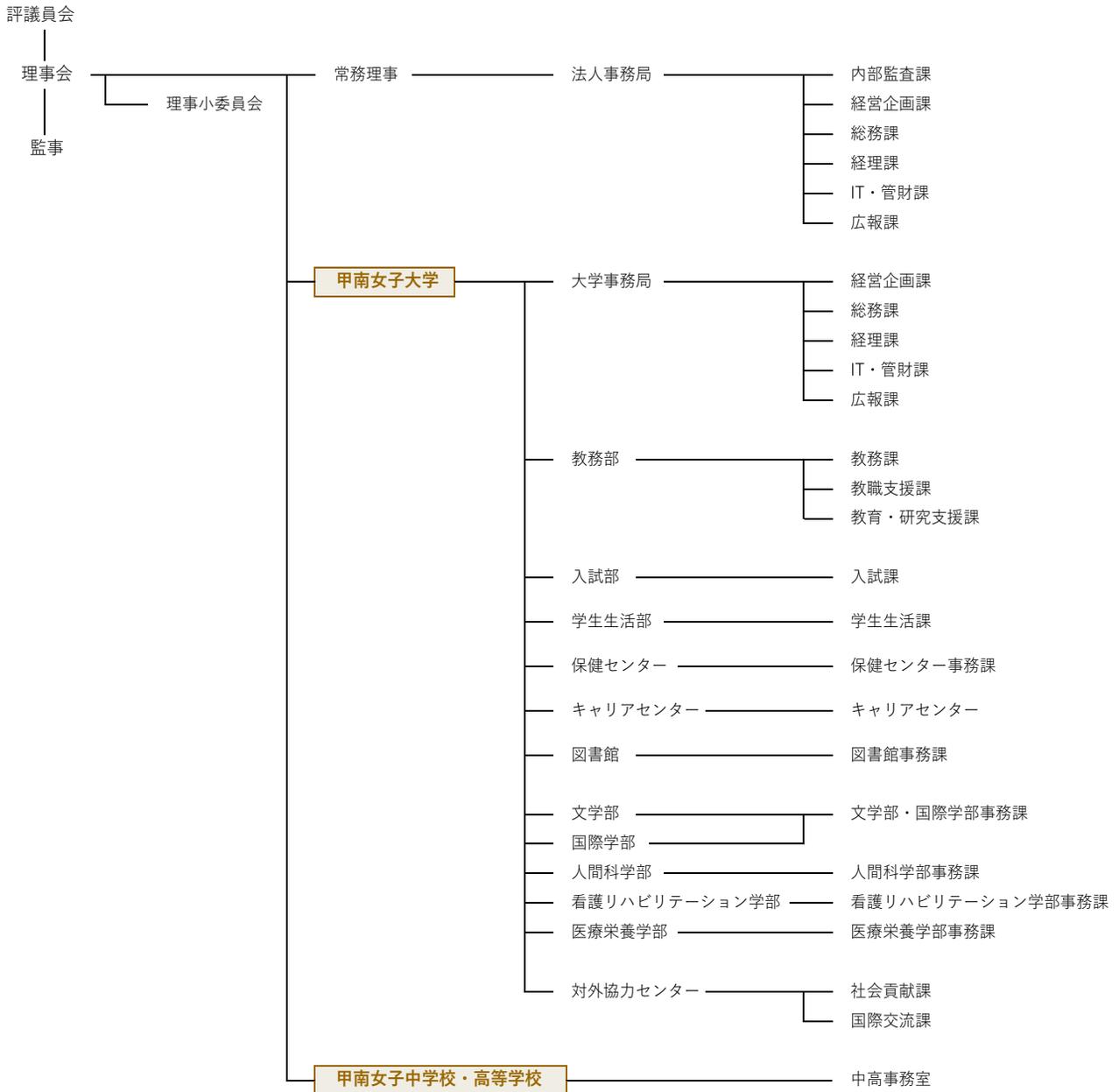
氏名	就任年月日	氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
西田 隆政	2020.4.1	秋元 典子	2018.4.1	角 和夫*	2016.7.10
森田 浩一	2020.4.1	宇佐美 眞	2018.4.1	宮原 秀夫*	2017.7.10
西尾 新	2020.7.10	竹井 誠	2017.4.1	近藤 三津枝*	2013.7.10
伊藤 浩充	2021.4.1	奈良山 和子*	2017.7.10	具 英成*	2021.3.16
柴田 克己	2020.4.1	青井 さゆき*	2016.7.10	石岡 佑佳美*	2019.7.10
中岡 妙子	2020.7.10	辰馬 有美子*	2021.7.10	坂口 行洋*	2021.7.10
深澤 貞信	2018.7.10	塩田 恵子*	2021.7.10	明石 巧*	2004.7.10
後田 尚宏	2018.7.10	中内 仁*	2010.7.10	大川 剛*	2019.7.10
田中 昌志	2020.7.10	森下 榮生*	2014.7.10	岩端 正尚*	2020.7.10
森田 勝昭	2016.7.11	樽本 和美*	2019.7.10	渡口 裕子*	2021.7.10
岡田 明	2015.4.1	小西 新右衛門*	2018.7.10	山戸 一悟*	2021.7.10
信時 哲郎	2021.4.1	平山 一哉*	2015.7.10	小野 多賀子*	2021.7.10
野崎 志帆	2020.4.1	下村 雅一	2014.7.10	井上 もとこ*	2021.7.10
原田 隆司	2019.4.1	長坂 悦敬*	2020.7.10		

定数 評議員29～42名

*学外の評議員

教職員の概要

学校法人組織図 (2022年3月31日現在)



専任教職員数 (2021年5月1日現在)

■ 甲南女子大学 (教員)

学部	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
文学部	9	8	8	0	0	25
国際学部	10	9	4	2	0	25
人間科学部	33	12	6	3	0	54
看護リハビリテーション学部	18	13	13	14	2	60
医療栄養学部	7	5	3	3	2	20
合計	77	47	34	22	4	184

■ 甲南女子中学校・高等学校 (教員)

校長	副校長	教頭	教諭	講師等	合計
1	1	2	50	7	61

■ 職員 (法人含む)

専任	その他	合計
84	33	117

2021年度の主要な取組み

1 甲南女子学園100周年記念事業

✿ 甲南女子学園創立100周年記念式典

2021年11月20日（土）、神戸ポートピアホテルを会場に「学園創立100周年記念式典」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約1年の開催延期及び開催内容の変更を行い、感染症対策を十分に施した内容での実施となりました。当日は穏やかな快晴で天候にも恵まれ、無事に開催することができました。

記念式典は、学園の歩みをまとめたオープニングムービーの上映により開幕。続いて開会の辞では、中内仁理事長が創立者安宅彌吉氏の言葉を引用され、「この100周年は今後の甲南女子学園がどのような学園を目指すのかを改めて問い直す機会」とし、「品位と教育を兼ね備えた女性教育」の提供と、卒業生が自立して社会を生き抜くため、学園一丸となって応援し続けることを誓いました。式典には創立者のご遺族である安宅光雄氏、安宅一弥氏にもご参加いただき、ご来賓の片山安孝兵庫県副知事、久元喜造神戸市長、奈良山清友会会長からも祝辞を頂戴しました。

司会進行は、本学出身でアナウンサーとしてご活躍中の、草壁愛氏（NHK神戸放送局）と矢野みなみ氏（ホリプロ）。お二人は文学部日本語日本文化学科ご出身の同級生で、冒頭では学生時代の仲睦まじい写真が公開され、最後まで息のあった司会進行となりました。

式典の後半を彩ったのは、中高出身で現在大学の非常勤講師をつとめる、元宝塚歌劇団の藤咲えり氏。同期生の鳳真由氏とともに「タカラヅカの魅力」を再現するステージショーを披露いただきました。また、学生・生徒の代表者6名とともに校歌斉唱を行い、来場者は心の中で合唱し会場全体が一つになる瞬間でした。

最後には、公務ご多忙の中駆けつけていただいた、末松信介文部科学大臣からも祝辞を頂戴し、締めくくられました。その後、神戸ポートピアホテルの大輪田の間へ会場を移し、食事会（マスク会食）を開催し、和やかな雰囲気の中幕を閉じました。

来場者記念品の一つには、神戸の洋菓子店「Chocolat Republic（ショコラリパブリック）」との連携で、甲南女子オリジナルギフトセットを作成しました。甲南女子学園の同窓生が、取締役・営業企画室長として活躍中で、大学の濱口ゼミの学生たちとのコラボレーションによるアニバーサリーギフトで、記念式典を彩りました。



✿ 甲南女子学園創立100周年記念音楽会

2021年10月9日（土）、「学園創立100周年記念音楽会」を甲南女子大学芦原講堂にて開催しました。記念式典同様、約1年の開催延期となり、開催内容の変更と検討を繰り返しながら、来場者を一部の学園関係者に限定して、鑑賞を中心とした内容での実施となりました。

今回の記念音楽会では、ピアニストの上田晴子氏、オルガニストとして活躍する中高同窓生の原田真侑氏、同じく中学同窓生でヴァイオリニストの小林玉紀氏、指揮者の藤岡幸夫氏及び地元・関西を代表するオーケストラ「関西フィルハーモニー管弦楽団」の皆様をゲストにお迎えし、会場は終始あたたかい雰囲気に包まれました。プログラムの最後には、森啓一先生指揮、中高コーラス部の合唱による中高愛唱歌「青春はいま」が披露され、音楽を通じて甲南女子のつながりを感じられる舞台となりました。



✿ 上方浮世絵名品展

創立100周年の感謝を込めて、2021年11月21日（日）～12月21日（火）、兵庫県立美術館ギャラリー棟3階で甲南女子大学図書館が所蔵する上方浮世絵コレクションを無料・一般公開展示しました。展示した上方浮世絵は、文化・文政期（1804-1830）に出版された大判錦絵100点で、延べ1,603人（1日平均 59.3人）に来場いただきました。さらに、研究者によるギャラリートークを会場内で実施、本学学生18人と一般来場者30人が参加しました。

企画運営には、大学非常勤講師である北川博子氏監修の下、学芸員・司書課程を履修中の学生が参加しました。また、8学科23人の学生が、ボランティアとして会場に常駐し、来場者の質問に対応するなど、社会の中で大学の学びを実践しました。来場者からは、学生ボランティアの対応が評価され、教職員、学生が協働して、社会貢献に携わることができました。

本展覧会は、教育機関ならではの情報資源の提供及び教育活動を通じて、地域社会への社会貢献と質の高い教育の実践が両立された、貴重な機会となりました。



✿ 甲南女子学園100年史の発行

甲南女子学園100周年記念事業の一環として学園の歴史を次世代へと繋げるため、100年の歩みを掲載した本誌『甲南女子学園100年史』と、写真を多用しダイジェスト版としてコンテンツを抜粋した副読本『甲南女子学園創立100周年記念誌』の2種類を発行。記念式典の来場者には副読本を配本し、学園関係者、執筆者及び関係機関等には本誌を配本しました。

本誌は、記念式典の開催延期に合わせて編集期間を1年間延長し、新型コロナウイルス感染症対策の記録についても収録。また、記念式典に招待が叶わなかった本学園の卒業生、佐藤愛子氏・小池百合子氏・朝井まかて氏からの寄稿も収録しました。

副読本は、200冊限定で卒業生を対象に頒布の希望を募ったところ、予想を上回る300名からの申込みがあり、希望者全員へ配本しました。また、より広くステークホルダーの皆様にお届けできるよう、学園創立100周年特設サイト内で副読本のPDFを公開しています。



✿ 100周年記念募金事業

2017年4月より開始した学園創立100周年記念事業募金は、2021年3月末日をもって終了しました。

法人・団体の皆様からの寄付68件、卒業生、保証人をはじめとした個人の皆様からの寄付1,188件と、合計で1,256件318,842,596円のご寄付を頂戴しました。目標金額の2億円の150%に達し、目標を大幅に上回る形で締めくくることができました。

ご支援賜った寄付金は、本学園の事業計画「新しい100年紀にむけた、女子教育の充実のため」に基づき、有意義に活用させていただきます。

- 女性のための学習環境向上事業
- 女性のための学習コンテンツ充実事業
- 女性のための学習機会拡大事業

また、一定額以上のご寄付を頂戴した法人及び個人のご芳名を顕彰した銘板を、大学・中高双方のキャンパス内に設置しました。



	件数	金額
法人寄付	68件	131,166,788円
個人寄付	1,188件	187,675,808円
合計	1,256件	318,842,596円

2 第5次中期計画(2021~2023年度)の推進

中期計画重点テーマに基づく2021年度重点施策の推進

本年度より、3年間で取り組む第5次中期計画の初年度がスタートしました。18の中期計画重点テーマに基づき、単年度計画である事業計画を策定し、学園が一体となり推進しています。

以下は、2021年度重点施策の主な取り組みです。

大学

「未来への実践力」の実質化と次世代型教育モデルの創造

「人材育成に関する目的」及び「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」を全学科で策定。オンライン教育推進タスクフォースを設置し、全学FD委員会と協同でオンライン活用モデルを推進。

大学

次世代型教育モデルを実践するインフラ整備

ハイフレックス型授業（対面授業とオンライン授業の同時受講が可能）に対応した教室を5教室整備。2022年度大学入学生より、ノートPCの必須化を決定。

大学

全学的な学生募集活動の推進と募集力の強化

高大連携講座の実施校を拡充し、高校との連携強化を推進。一方、募集環境の悪化を受けて、次年度の重点施策を見直し、入学生アンケート等を通じた募集広報施策の再構築を決定。

大学

教職協働による積極的なキャリア形成支援

学内企業セミナーを7月に約30社、2月に約120社実施。保証人ガイダンスは動画で配信。また、キャリア委員を通じて、キャリアガイダンス及び各種サポートプログラムの受講を学生に周知。

中高

未来を切り拓く力となる協働・探究型教育モデルの創造

「甲南女子メソッド」について、生徒及び保護者にアンケートを実施。高校新教育課程に対応したルーブリックを作成し、オンライン授業用教材の開発及び改良を推進。

中高

教職協働による生徒募集活動の募集力の強化

オンライン説明会を4回開催（参加者1,244人）。少人数グループによる学校見学会は50回以上開催。また、塾訪問についても学期ごとにテーマを設定し実施。

3 新型コロナウイルス感染症への対応

✿ 新型コロナウイルスワクチンの職域接種実施

職域での新型コロナウイルスワクチン接種を推進する政府発表方針に基づき、甲南医療センター、神戸市東灘区、神戸薬科大学、甲南大学及び甲南女子大学が組織する「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」内に「東灘コンソーシアムワクチン接種協議会」を結成し、ワクチン（武田／モデルナ社）の職域接種を共同で実施しました。甲南医療センターは医師・看護師の派遣、神戸市東灘区は各種手続きの支援、神戸薬科大学は薬剤師の派遣、甲南大学は事務局の設置、接種会場の提供及び運営、本学は看護師の派遣を担当。協議会を中心にそれぞれが役割分担を果たし、計3回の接種（第1,2回：7月12日～8月23日、第3回：3月19日～3月27日）を実施しました。

当初、接種対象は3大学の学生・教職員を中心としていましたが、神戸国際大学及び頌栄短期大学の学生・教職員、東灘区など近隣地域の高等学校、中学校、小学校の教職員も対象に加え、ワクチン接種を希望する方々へ地域貢献の一環として「大学拠点接種」を進めることができました。

✿ 感染症対策と学びの継続を両立

大学 の 取 組 み

■ 授業

- ・教室収容定員1/2以下に制限し、対面授業を実施
- ・受講者数51名以上の科目のみオンライン授業
- ・学習支援システムを活用した資料配付
- ・対面とオンライン同時受講可能な教室を整備

「甲南女子の新しい学校様式」をCHECK! 

■ 各種行事

- ・入学式は芦原講堂を使用せず、各学科単位で実施
- ・教育懇談会は対面とオンライン（Zoom）を併用し、全体会を芦原講堂で実施
- ・学位記授与式は保証人1人を出席可として芦原講堂で実施



中学校・高等学校 の 取 組 み

■ 授業

- ・平常通りの対面授業を実施
- ・iPad, Google Classroomを活用した教材配布、学習内容の共有、動画の提供等によりオンライン学習も推進
- ・緊急事態宣言発令時には時差登校を実施

「学校生活の新着情報」をCHECK! 

■ 各種行事

- ・入学式は入場者数を制限して開催
- ・文化祭及び体育大会は無観客により開催
- ・予餞会是对面とオンライン（Zoom）を併用して実施
- ・卒業式は保護者2人まで出席可として実施



4 大学ガバナンス改革について

✿ 学長業績評価委員会の開催

2021年4月に、本学で第一回目となる学長業績評価委員会を開催しました。委員会では、自己評価書等を参考に学長との面談を実施し、任期中における業績執行状況の確認を行いました。

総合評価は「概ね評価できる」との結果で、評価できる点、課題が残る点、今後の課題の3点から総評を作成し、理事会等への報告を経て全学的に公表しました。この業績評価は、学長就任後2年が経過した後に実施するものとしており、学長の役割や業績への理解度が更に深まるよう、今後も評価制度の充実化を推進します。

学科・研究科の取組み

文学部日本語日本文化学科

- 模擬結婚式を企画運営する「にちぶんブライダルプロジェクト」を実施し、新たな体験型の学びを創出。
- 小学校での日本語教育の支援を学生主体で実施、従来からの日本語教育実習とあわせ実践力を強化。
- 視聴覚コミュニケーションコースの集大成として、J:COMで放送する番組を制作し、実践力を強化。
- 各コースの講義及び2～4年ゼミで臨地授業を実施、また実務家をゲストとして講義に招聘、ともに学びの深化を推進。



<にちぶんブライダルプロジェクト>

文学部メディア表現学科

- 2年次必須科目「メディア表現発展演習Ⅰ・Ⅱ」において、AIと社会をテーマにした講義を展開。文学、情報工学、コミュニケーション、身体表現、映像表現の立場から文理融合教育を実施。
- オンライン授業では授業内容に則したツールを複合的に利用し、Zoom, Slack, Teamsに加えて、SMSによる情報共有も導入。
- 8月のオープンキャンパスで、学生の制作した作品や映像を展示する「未来のわたし展」を開催。



<未来のわたし展>

国際学部国際英語学科

- ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)B1レベル全員到達に向けて、補習、アドバイジング、e-learning等の英語教育を実施。
- 英語日文学科3・4年生による第56回シェイクスピア祭の企画と開催。
- シンポジウムや就職内定者報告会の開催、ゲストスピーカーを招いた授業等を通じて、キャリア支援教育を推進。
- SDGsや女性の視点を取り入れた学びと発信（学外研究会発表等）。
- e-spaceの学生委員会を中心とする活動及び海外文化体験のためのイベントを実施。



<e-spaceでの異文化体験イベント（インド）>

国際学部多文化コミュニケーション学科

- 学修成果可視化システム「みらいパス」連動による、学科で身につく力(MCC10)の可視化イメージ作成。
- ボランティア、インターンシップ、留学生との異文化交流、オンライン留学、グローバルビジネス最前線の企業訪問等のGlobal Citizenship Program(GCP)活動を実施。
- グローバルキャリアプログラムにて、企業による講演会、インターン情報共有、履修生個別アドバイジング、公務員試験対策講座受講支援等を通じて、学生のキャリア開発をサポート。



<ウェスティンホテル大阪訪問>

人間科学部心理学科

- AI活用に繋がるプログラミング学習の一環として、プログラミング言語の実験作成ツール(jsPsych)を用いた心理実験作成方法の講習を実施。
- 身体・生理反応の時系列データの収集を目的として、脳活動及び視線を計測し、3次元トポグラフィ(地形図)やヒートマップの作成によるデータ解析を実施。
- AI活用として、ポートフォリオから時期ごとの学生の心理的变化を可視化するため、「ふり返り」テキストの感情語分析を実施し、クラスター分析を通じたパターン化を推進。



<脳活動計測ツール>

人間科学部総合子ども学科

- 学びの成果のデータベース化のため、学生が閲覧可能なデータベースに総合子どもカーニバル及び折り紙製作等の画像、動画を集積。
- 「教育・保育におけるICT化」に対応したオンライン授業の実践のため、「教職実践演習」「幼稚園実習指導」で保育現場と大学をオンラインツールで結んだ授業を展開。
- 卒業生へのアフターケアと在学生の実践交流を目的として、Zoomによる「教育実践夏季セミナー」を実施（保育所、幼稚園及び小学校の教員等が参加）。



<教職実践演習オンライン授業>

人間科学部文化社会学科

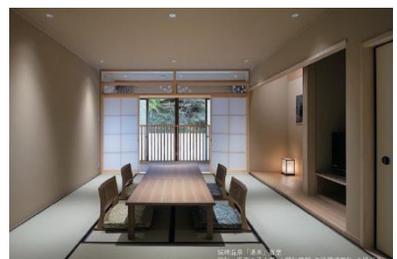
- 社会調査法（質的/量的調査）に関連する授業において、積極的にICTを導入し、更なる教育の充実を推進。
- Web上のサービス(SurveyMonkey)で「コロナ禍における大学生の行動・意識」をテーマに学生がオンラインアンケートを実施。設問設計から分析までの一連の作業を効率化し、より実践的な学びを推進。
- 様々な分野の第一線で活躍するゲストを招き、インタビュー形式でトークを展開する「文化社会学科講演会」を9回開催。
- 社会調査関連科目及び選択必修科目を拡充した新カリキュラムを開始。



<文化社会学科講演会>

人間科学部生活環境学科

- 各分野で、社会と繋がる活動に参画し、産官学連携事業を推進。
- 社会環境分野では、SDGsワークショップの開催、若者の消費者トラブル防止啓発グッズを作成。
- 住分野では、城崎温泉の旅館「湯楽」の客室改修工事計画に参画。
- 食分野では、企業と連携した食品開発及びレシピ考案、農林水産省の官民協働「Let's! 和ごはんプロジェクト」にも参画。
- 着装シミュレーション、住まいの間取りや家具の配置計画、VRゴーグルの活用など、実体験に近いシミュレーション教育を展開。



<城崎温泉「湯楽」改修後客室>

看護リハビリテーション学部看護学科

- ICTを活用したオリジナル教材の作成と教育方法の拡充。
- 臨床感覚を重視した学内での看護学実習のため、オンラインを活用した臨床看護師による実習指導を実施。
- シミュレーターを用いた反復学習と、リフレクションに基づく主体的学修を支援。
- Paper Patient（紙上患者）と模擬患者を連動させた患者理解の促進と、看護倫理観の重要性を実感させる教育を展開。
- 文部科学省補助金事業「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に中期計画事業をベースとして申請した結果、対象大学に選定。



<シミュレーション教育>

看護リハビリテーション学部理学療法学科

- ウィメンズヘルス関連の授業及び課外活動を開始し、講演会を2回開催（総参加者数170名）。
- 学生・医療職者に対してWeb講演会を6回開催（総参加者数1,900名）。
- 学生と教員が協働して、一般健康者に対するヘルスチェック体験会を2回実施（総参加者数90名）。
- 映像（YouTube, OneDrive等）を利用した遠隔授業(オンデマンド型、同時双方向型、ハイフレックス型)の実施や反転授業を試行。



<ヘルスチェック体験会>

医療栄養学部医療栄養学科

- 教育効果の更なる向上及び実践力の実質化を見据えたカリキュラム改革の推進。
- 多職種連携教育(IPE)を主眼とした情報及び教育を学部教員間で共有し、FD研修会を他学部（看護リハビリテーション学部）と合同により実施。
- 学部生出身高校への訪問、オープンキャンパス時及び事後サポート等多様・積極的なアプローチによる志願者数増加。
- 学科教員及び外部業者による受験対策講座の集中的実施。
- きめ細やかなキャリアサポートにより、高内定率を確保。



<臨地実習報告会>

人文科学総合研究科

- 大学院設置基準の改正に伴い、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位について、単位認定の上限を引き上げ。さらに、修得に要した期間等を勘案した在学期間の短縮を規定。（看護学研究科も同様）
- 大学院の取組発信のため、学位論文審査基準を規程化し、大学Webサイトに公表。
- 2021年度は、博士前期課程修了者7人に修士の学位を授与。博士後期課程修了者は該当者なし。

看護学研究科

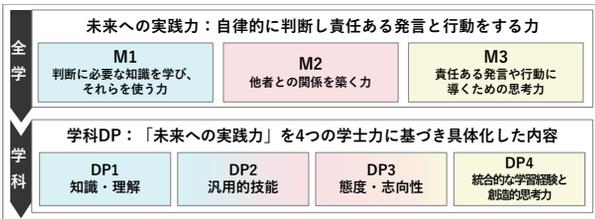
- 看護学研究科の教育をより充実させるため、博士前期課程及び博士後期課程のカリキュラムを改正。
- 専門看護師教育課程廃止に伴い、教育研究上の目的及び博士前期課程の修了要件を見直し。
- 大学院の取組発信のため、学生要覧に掲載していた学位論文審査基準を、大学Webサイトに公表。
- 2021年度は、博士前期課程修了者2人に修士の学位を授与。博士後期課程修了者1人に博士の学位授与。

大学の取組み

1 教育活動

(1)「未来への実践力」の実質化

「未来への実践力」の定義を明確化し、全学ディプロマ・ポリシーと位置付け。学生が、学科のディプロマ・ポリシーを学修成果の目標とできるよう、より具体的な内容に見直し新たに策定。次年度の事業計画では、全学科「未来への実践力」育成の具体的方策を計画。



(2)学修成果の多面的な把握と活用

学修成果可視化システム「みらいパス」を活用し、学生自身が半期ごとに学習を振り返り、頑張ったことや改善すべきことを記載する全学統一の項目を設定。さらに、各学科の要望をヒアリングし、教育内容に沿った項目の実装準備を推進。



(3)ICTを活用した教育の実施

オンライン教育推進タスクフォースを中心に、ICTを活用した6つの授業モデルを提示。アンケートを実施し、各授業でのICT活用状況を把握。また、全学FD委員会と合同による教職員向け研修を実施し、ICTを活用した授業等の優れた取り組みを共有。

活用事例の主な内容	科目数
オンライン授業資料提示	1,512科目
オンラインによる課題回収	1,472科目
オンライン教材の標準化	355科目
ハイフレックス授業	205科目
オンライングループワーク	203科目
反転授業	102科目
オンラインゲストスピーカー	74科目
実習記録のクラウド化	43科目

※複数回答可、授業中一度でも活用した場合カウント

(4)IRデータの更なる活用

1年生と3年生を対象に、アセスメント・テストPROG（学修到達度調査）のweb受検を推進。1年生は98.6%、3年生は93.9%と非常に高い受検率となった。受検結果の経年変化を集計したデータに基づき、各学科で成長事例とみなす学生へのインタビュー調査を実施。

(5)新たな授業形式に応用するFD研修の実施

2021年度は、全学FD研修を8～9月と3月の計2回実施。8～9月の研修は、Teamsを活用し同時双方向型で開催。3月の研修は、Zoomを活用したハイフレックス形式での開催とした。研修後にはアンケートで寄せられた質問に対し回答を配信することで、アフターフォローにも努めている。研修のテーマは下表のとおり。

2021年度全学FD研修		参加者数
8/30・9/2	授業実践の共有と意見交換	60人
3/1	オンライン活用のソリューション	96人

(6)内部質保証の推進と認証評価対応

内部質保証委員会が中心となり、学科ごとに「人材育成に関する目的」を学則に規定。3つのポリシーを起点とした教育の質保証を推進するため、全学的な基本方針を策定することを決定。

また、2022年度は日本高等教育評価機構による認証評価の受審を予定しているため、大学評価委員会を中心に自己点検評価書案を作成。2022年10月の受審に向け、自己点検・評価活動を継続。

2 研究体制

(1)学術研究活動の充実化

競争的資金申請について確実な獲得件数の増加を目指し、記入要領に基づく申請書類の添削を実施。最終年度の科研費に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、延長承認申請を行った。科学研究費助成事業の採択率は36.4%と、日本学術振興会が掲げる政策目標である30%を超える採択率を確保。

単位(千円)

外部資金名【研究代表者分】	獲得件数(前年度)	金額(前年度)
共同研究	2 (2)	1,000 (850)
受託研究	1 (1)	390 (390)
科学研究費助成事業	8 (17)	31,000 (58,600)

(2) 学術研究及び教育振興奨励基金の支給

学内の研究助成「学術研究及び教育振興奨励基金」について、出版助成1件、学術及び教育振興に役するための調査活動助成6件を採択し、総額2,750,000円の助成額を承認。

■ 出版助成

単位 (千円)

申請者	刊行物	助成金額
ウォント・盛 香織 国際英語学科 准教授	本気で女性を応援する女子大学の探究—甲南女子大学における女性教育	1,000

(3) 競争的外部資金の監査体制強化

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」改正に伴い、内部統制について学内で検討。未実施の体制整備について関係各署と協議の上、「研究費不正防止の基本方針」及び「甲南女子大学公的研究費不正防止計画」を策定。大学Webサイトにも公開済み。

3 学生生活支援

(1) 学生との協働によるキャンパス活性化

2020年度より試験導入していたキッチンカーを本格的に導入し、大学生協による営業を開始。授業期間中は、曜日ごとに異なる店舗を誘致。人気メニューの際には、学生が列を作って利用するため、屋外で喫食できるようベンチを増設。更なる利用促進のため、ベンチ等の増設による喫食場所の確保について検討継続中。



ゼミ・クラブ懇談会は、学科の教員を通じて懇談会の実施を繰り返し依頼。近年、新型コロナウイルス感染症の影響により実施団体数が大幅に減少していたが、今年度の実施率は40%に到達（昨年度比116%増）。

(2) 奨学金制度の充実化

現建物での学生寮は、2024年1月末での廃止を決定しているため、寮廃止後の遠隔地学生支援体制について、閉寮後の物件あっせん及び遠隔地奨学金制度を検討中。

また、各種奨学金制度に関する説明会について、学生の利便性や理解度を考慮し、字幕及び資料を含んだ動画によるオンデマンド形式での配信を実施。

■ 奨学金受給学生数推移



(3) 次世代型留学の推進

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインによる語学研究及び国際交流プログラムを導入し、夏期と春期に分けて実施。参加費用は大学負担とし、学生が無料で気軽に参加できる体制を整備。夏期には4つのプログラムを開催し、20人の学生が参加。春期にはPBL（課題解決型学習）やインターシップの要素を含んだ、8つのプログラムを実施し、174人の学生が参加。

また、2022年度より渡航を伴う海外留学を再開。2022年3月、学生3人がアイルランドの大学へ留学。

■ 2021年度夏期オンライン留学プログラム

プログラム	期間	参加者数
韓国 梨花女子大学校 韓国語・韓国文化研修	約3週間	8
カナダ リジャйна大学 英語・カナダ文化研修	約3週間	3
カナダ サイモンフレーザー大学 英語・カナダ文化研修	約4週間	3
インドネシア ガジャマダ大学 インドネシア語・インドネシア文化研修	約2週間	6

■ 2021年度春期オンライン留学プログラム

プログラム	期間	参加者数
韓国 Lexis Korea オンライン韓国語研修	約4週間	14
韓国 梨花女子大学校 オンライン韓国語研修	約3週間	41
カナダ JAN-LINK グローバルPBLプログラム	約2週間	9
アメリカ サンフランシスコ州立大学 オンライン文化研修	約2週間	14
オーストラリア ILSC オンライン英語研修	約3週間	61
ニュージーランド ワイカト大学 オンライン英語研修	約3週間	24
モンゴル オンラインSDGs学習+課題 解決プログラム	約1週間	7
インドネシア ガジャマダ大学 インドネシア語・インドネシア文化研修	約2週間	4

(4) 留学における危機管理体制の強化

従来の危機管理対策に加え、新型コロナウイルス感染症のリスクも踏まえた「事故対応模擬訓練」を、留学に関わる教職員を対象に実施。

海外旅行保険や危機管理サービスについても、新型コロナウイルス感染症にも対応した補償内容、及び包括的なサポート体制であることを確認。さらに、次年度から再開する渡航を伴う留学において、留学事業者と連携し、派遣の手続きから現地オフィスでの学生サポートまで、一貫して支援を受けられる体制を整備。

(5) 学部事務課を核とした学生第一の実践

■ 文学部・国際学部事務課

コモンルームでの支援として、Zoomを利用したオンラインによる学生相談や学生スタッフとのミーティングを試行。さらに、コモンルームの認知度及び活用頻度等を把握し、学生の利用促進に繋げるため、次年度にアンケートを実施することを決定。

また、留学生への支援として、今年度は入国できない状況下であったため、オンラインを活用しつつなかりを絶やさないよう教員及び各部署と連携。授業については、大学からテキストを送付する等の物理的支援を実施。

■ 人間科学部事務課

コモンルームでは、登学機会の減少や席数削減等により学生利用率が減少したため、人間科学部の各コモンルームからオンラインによる学生支援の構築を検討。2月から4学科で「お試しオンラインコモンルーム」をZoomで4回ずつ実施し、職員のオンラインスキル向上を推進。次年度は、教職協働により学科のニーズに沿った内容での実施を計画。

一方、人間科学部開設20周年を記念した講演会を2022年1月に実施するよう計画したが、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け中止。次年度への延期を決定。

■ 看護リハビリテーション学部事務課

新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習の参加に必須となったPCR検査について、学生の受検費用を大学負担とし、兵庫県の補助金事業に申請。

また、国家試験の受験申請等に係る説明会についても、感染症対策を踏まえて、教員と連携しながらオンラインと対面で開催。さらに、受験申請時の記入ミスを防ぐため、要点をまとめた記載例を配信し、例年より迅速かつ混乱なく出願手続き及び受験票配付を完了。

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師	101人	101人	100.0%	96.5%
保健師	28人	27人	96.4%	93.0%
助産師	4人	4人	100.0%	99.7%
理学療法士	67人	63人	94.0%	88.1%

■ 医療栄養学部事務課

学生の修学環境整備のため、10号館のPC教室に感染症対策の亚克力板を設置し、収容人数の制限を撤廃。通常通りの収容人数へ変更。また、コモンルーム、ピアルームでの自学自習につなげる施策としてコモンルーム所蔵書籍システムを刷新。本学部の教育内容に特化した所蔵図書を400冊から750冊に増やし、専門分野別・疾患別に分類して配架。データによる蔵書検索も可能とし、学生が主体的に学びに取り組めるよう工夫。

国家試験	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
管理栄養士	75人	67人	89.3%	92.9%

4 キャリア形成支援

(1) 学生へのキャリア指導強化

学生が就職活動のために使用する「求人検索NAVI」を改修し、利便性の向上を推進。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて企業訪問は中止となったが、学内企業セミナーを7月と2月に実施。7月には約30社、2月には約120社実施し多くの学生が参加。また、個別相談の予約件数は、昨年度比144%（1,931件⇒2,783件）と増加。なお、2021年度の大学全体の就職率は98.6%、実就職率は92.0%、就職希望率は92.1%。

■ 学科別の就職率等

	単位 (%)					
	日本語 日本文化	英語 文化	多文化 コミュニケーション	メディア 表現	心理	総合 子ども
就職率	98.8	96.8	95.2	97.3	98.9	99.4
実就職率	92.0	90.9	85.7	83.9	90.9	94.6
就職希望率	92.1	93.9	90.0	86.2	86.7	94.6
	文化 社会	生活 環境	看護	理学 療法	医療 栄養	
	就職率	98.9	98.8	100.0	100.0	100.0
実就職率	92.8	90.1	98.0	93.9	97.3	
就職希望率	93.8	91.2	96.1	92.5	92.2	

(2) PROG分析を通じた社会人基礎力強化

(株)リアセックと協働し、学生の就職データとアセスメント・テストPROG（学修到達度調査）の関連性を分析。分析の結果、本学学生のコンピテンシー（周囲の環境と良い関係を築く力）と、進路、業種、職種等の就職データの間に関連性を確認。次年度は、1年生からの経年変化を分析項目に加え、取り組みを継続。

■ 3年生のPROG平均値推移



(3) 就職満足度向上への取組み

(株)エンリッジョンと連携し、新たな就活支援サービス「知るカフェオンラインストア」を導入。オンラインで企業の人事担当者と交流できるサービスで、学年を問わず全学生が利用可能。1年生2年生の低学年でも利用できる、キャリア支援の充実を推進。

また、ガイダンス及びセミナーはオンラインにより開催し、YouTubeでの動画配信も実施。2021年度のキャリアガイダンスは、Zoomを活用して計6回実施。



(4) 教職課程における基礎学力の向上

教職採用試験を受験する学生向けに、中高免の教職課程（国語及び英語）の履修モデルを作成し、2022年度学生要覧より掲載。さらに、学生の基礎学力向上を目指し、試験に役立つ科目をピックアップし、学生への履修指導に活用。

今年度の教員採用試験対策講座は、対面・オンラインを併用し、講座受講実人数は41人と安定的に推移。

■ 教員採用試験対策講座受講者数		2020年度	2021年度
講座受講実人数		68人	41人
教員試験対策	教職教養	33人	24人
	一般教養	20人	0人
	小学校専門	15人	18人
	人物試験	20人	21人
共通対策	一般知能	29人	6人
	社会科学	29人	9人
公務員試験対策	自然・人文	28人	9人
	人物試験	20人	6人

■ 2021年度 教員・保育士就職者数

		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	保育園
公立	教諭	18人	2人	0人	2人	3人
	講師	7人	8人	0人	2人	1人
私立	教諭	0人	0人	0人	54人	29人
	講師	0人	3人	2人	0人	0人

(5) キャリア形成に役立つ読書企画の実施

キャリアセンターとの連携を強化し、「図書館でも就活」を実践。キャリアセンターを利用した学生が、図書館へ足を延ばし、就活情報を入手する仕組みを整備。館内には「ガクチカ関連本」を案内展示し、学生時代に力をいれたことについて、エピソードの創出等、書き方を支援。



5 高大接続・学生募集

(1) 高大接続改革の推進

仁川学院中学・高等学校と学校間包括協定を締結し、高大連携講座を活用した選抜を導入。現時点では、兵庫県下の私立高等学校3校、大阪府下の府立高等学校1校で、高大連携講座を実施。次年度以降、「探究」授業への参画拡大を検討中。



(2) ICTを活用した学生募集活動

オンラインツール（Zoom, LINE等）を活用し、受験生の相談対応を強化。月2回定例で相談会を設けており、LINE相談会は、全15回の開催で相談数137人に対応。

また、入試選抜合格者には、歓迎の気持ちを込めたスペシャルムービーを公開。大学入学後のイメージを具体的に想像できる限定コンテンツを作成。

(3) 学部学科協働による学生募集活動

■ 文学部・国際学部事務課

大学Webサイトで公開している学科日誌ブログ及びInstagramにより、学科の学びを積極的に発信。学科日誌ブログは月1回、Instagramは週3回程度配信。

また、学科教員及び入試課と協働し、オープンキャンパス来場者の満足度向上を目的に、各学科の学生サポーターが、学科の魅力を自らの言葉で発信できるよう育成。

■ 人間科学部事務課

ステークホルダーに“Fan”を増やすため、人間科学部事務課オリジナルグッズの制作を決定。事務課職員による委員会を立ち上げ、人間科学部開設20周年を記念したオリジナルファイルを作製し配付。また、3月21日のオープンキャンパスでは、学生サポーターと協働で作成したオリジナルグッズを配付し、好評を得る。



■ 看護リハビリテーション学部事務課

医療系学部教育の特色である「チーム医療」を打ち出すため、オープンキャンパスにおける3学科合同説明会を実施。この他、理学療法学科ではイベントの企画から反省会まで全てに事務課員が参画し、教職協働のPDCAを実現。さらに、各種イベントや学科の様子をSNSで積極的に発信した結果、Instagramのフォロワー数が297人に増加（2021年4月時点で103人）。



■ 医療栄養学部事務課

認知度向上を目的に、学科内の学生募集委員会を再編し、教職協働で在学生在出身の高校訪問を5月に40校実施。産学連携企画にも積極的に参加し、理学療法学科と合同で、(株)近鉄百貨店主催の「ココロとカラダの健康フェア」にも出店。医療の学び・研究を生かした2種類のプログラムを実施。あべのハルカス近鉄本店での健康チェックイベントには延べ167人が参加し、レシピ配信動画のアーカイブ閲覧数は452件と盛況。



(4) 留学生入試の強化

海外での募集活動により3人が入学予定。新型コロナウイルス感染症の影響により、Zoomによる面接等オンラインを活用して試験を実施。プロモーションコンテンツとして、女子大の魅力をアピールする動画を公開。

(5) 募集力強化に向けた広報戦略の推進

代理店広告企画の見直しにより、医療栄養学科志望者の資料請求数が倍増。案件ごとにパートナー企業の幅を広げ、新規パートナーとの協業を実施。

また、デジタル広報施策の一環として、新しいWebメディア「キャンパスマガジン・シーソー」を開設。7テーマ14記事を公開し、学科教員及び在在学生との共創によるコンテンツを展開。



6 地域連携・社会貢献活動

(1) 産官学連携事業の推進

学生のキャリア形成を目的として、新たに企業2社との連携事業を開始。損害保険ジャパン(株)との意見交換の場を設け、学生の実践力向上を推進。さらに、フェイラージャパン(株)と学生スタッフの連携により、大学オリジナルハンカチを販売。



また、グランフロント大阪ナレッジキャピタル展示では、産官学連携や地域連携など、学外における学生の自主的な取組みを紹介。



(2) エクステンション講座の開催

幅広い年齢層の楽しい学びを支援する「エクステンション講座」を計8回にわたり開催。その内、2講座は、「フレイル予防」をテーマに大学コンソーシアムひょうご神戸と共催。Zoomを利用したオンライン形式を基本としたが、一部ハイフレックスによる講座を実施。さらに、アーカイブ配信を併用したことで、20～50代の参加者数が増加。

■ エクステンション講座

日程	タイトル	講師	参加者数
6/3	「フレイル」予防のためのエクササイズ・ウォーキングのコツ	三栖 翔吾 助教	47人
6/7	なぜ英語が身につかない？～ネパールと日本：英語教育の違いを考える～	Ann Mayeda 准教授	51人
6/17	フレイル予防のための食事と栄養	木戸 康博 教授	64人
6/29	演劇表現であそぼう～想像から創造へ～/演劇のアウトリーチ活動	本田 千恵子 講師	18人
9/24	幼保小連携を考える～何をどう接続するか～	伊藤 篤 教授	33人
10/29	SDGsと私たちの暮らし～社会や世界はどう変わっていくのか？～	高橋 真央 准教授	69人
11/8	甲南女子大学図書館所蔵上方浮世絵について	北川 博子 非常勤講師	111人
2/18	女性の働き方と税制	吉田 有里 教授	31人

(3) 次世代ボランティアプログラムの導入

新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動が大幅に制限される中、学びの継続を目的としてオンラインボランティアを導入。福島復興支援を目的とした「チームながぐつプロジェクト」には、8人の学生が参加。外国にルーツをもつ子どもの学習支援を行う「サタデークラス」には、5人の学生が参加。

7 環境整備

(1) ICTを活用した多様な授業実施環境の実現

ICTを活用した授業の推進に伴い、Teamsと学生生活支援システム「CampusSquare」の連携マニュアル及びTeamsの利用方針を作成。また、大学内のLAN環境を整備し10Gbps化を完了。ハイフレックス授業の実施に向けて、9号館の5教室に講義収録及び配信システムを導入し、教職員への説明会を実施。

(2) 学生の自主学習環境の強化

図書等資料の無料配送サービスを授業と連携して推進し、延べ222人が利用（貸出冊数381冊）。入学予定者についても、事前学習課題のために17人が利用。

また、学科とコラボ企画を実施し、学生の学修成果を発表する場として図書館を活用。さらに、図書館利用ムービーを作成し教職員へ公開。動画コンテンツは授業内でも活用され、図書館の利用を促進。

(3) 快適な学習環境の整備

温度、湿度の見える化推進のため、3号館の全教室に加湿器及び温度計を設置。「空調基本構想」策定に向けて、パートナー企業と協議。カーボンニュートラルへの取り組みを並行して実施し、空調熱源改修工事について授業を妨げない施工方法を検討中。

8 管理運営

(1) 事業継続計画の策定準備

危機管理及びリスクマネジメント体制を再構築するため、事業継続計画の策定準備を推進。他大学の状況を調査し次年度中の作成を決定。

(2) 職員力の強化

「ヴァイタリティ」「状況適応力」に的を絞り、階層別の集合研修を継続。教職員合同の集合研修では、オンラインを活用し、教職一体の研修を実施。

主なSD	参加者数	参加率
新任職員導入研修（4月）	3人	100.0%
1～2年目職員導入研修（6月）	7人	100.0%
教職員情報セキュリティ研修（4月）	295人	88.9%
教職員ハラスメント研修（5月）	288人	87.2%
教職員メンタルヘルス研修（5月）	192人	58.3%
副主任・書記研修（10月）	27人	96.4%
課長補佐/主任研修（10月）	23人	85.2%
管理職研修（9月・2月）	18人	100.0%
昇格者対象通信教育	7人	100.0%

(3) 財務体質の強化

各部門へ経費削減プロジェクトの参画を促し、16件2,780万円の経費削減の応募を受理。入学定員未充足の状況を踏まえ、関連部門と協議しながら現在の収支状況及び今後の収支予測を明確化。また、資産運用委員会を定期的に開催し、学生生徒納付金収入に依存しすぎない収入の多様化を検討。

中学校・高等学校の取組み

1 教育課程

新しい時代の教育課程の編成

新学習指導要領に基づく教育課程の策定（2020年度）を受けて、高等学校2022年度入学生用のルーブリックが完成。さらに、高等学校への「観点別評価」導入に対応するため、ルーブリックに即した観点を作成。

ルーブリック表紙		
甲南女子高等学校		
2022年度 77回生 高校1年 ルーブリック		
目次	教科	科目
2	国語	現代の国語 言語文化
4		
6	地理歴史	歴史総合 地理総合
8		
10	数学	数学Ⅰ 数学A
16		
21	理科	物理基礎 化学基礎 生物基礎
23		
25		
27	保健体育	体育 保健
28		
29	芸術	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ
31		
33		
35	外国語	英語コミュニケーション 論理・表現Ⅰ
37		
39	情報	情報Ⅰ
40	総合学習	総合・探求

2 授業力向上

(1) 授業内容・方法の見直しと開発

新学習指導要領に対応するよう、生徒の学習状況をリアルタイムに把握できる授業支援アプリとして、Google Workspace, MetaMojiClassRoomを利用した双方向性の高い授業を実践。また、プロジェクター、電子黒板、タブレット、ネットワーク等を活用し、教科指導におけるICT活用を推進。

さらに、大学入試においても、大学入学共通テストの研究を進めるとともに、記述式問題の重要性を意識した定期考査問題を作成。

(2) 授業評価（授業アンケート）

Googleフォームを活用して授業アンケートを実施。実施後の集計結果に基づき、各授業担当者が迅速に授業改善を推進。6月・9月には、少人数グループもしくは1対1で、教員間の授業見学及び意見交換会を実施。

3 総合学習

フィールドワーク・対話を重視した人間教育

■ 中学1年生「尊重」

ホームルーム、校外学習等の場面で、アサーションの手法を用いて相互理解と互いを尊重する活動を展開。

■ 中学2年生「対話」

広島平和学習を題材に、生徒同士及び外部講師との対話を通じて、他者との相互理解を促す授業を実施。なお、一日研修及び研修旅行は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止。本校内での講話とともに、中学1年生へのプレゼンテーションを実施。

■ 中学3年生「探求（環境）」

SDGsの17の目標のうち、6テーマについて担当教員6人がそれぞれファシリテーターとなり、生徒が希望するテーマについて学び、発表会を実施。



■ 高校1年生「探求」

5講座開講し、講座別に活動を展開。講座内での発表や学年発表会を実施。なお、水俣研修旅行は例年より日程を短縮。また、甲南女子大学人間科学部心理学科との連携活動を実施。これらの活動について、中学3年生へのプレゼンテーションを実施。

4 生徒指導

(1) 学年担任等との連携強化

生徒指導上の情報共有及び共通理解について、学年担任と徹底。生徒の安全対策として、登下校時の見守り、防災・避難訓練、救急方法の講習などを実施。さらに、教員を対象として「ハラスメント防止研修」「発達障害研修」を実施。

また、「いじめ対策委員会」を基軸に不登校やいじめなどの対策を検討し、生徒が安心して通学し、成長できる環境構築を強化。教育相談委員会、学年担任、生徒指導部、養護教諭、スクール・カウンセラーが連携し、問題を早期に発見し対応できる体制を整備。

(2) 生徒の自立心向上につながる指導

社会生活上の基本となる学校生活（挨拶、清掃、整理整頓、無遅刻など）の指導を強化。文化祭指導についても、催しの規模や集客数にこだわらない質的転換を目指す方向へ移行。

また、全校集会の制限された生徒会活動において、オンライン配信を利用した校長講話、和光会活動及び表彰を積極的に実施。

5 国際交流

(1) 異文化理解の促進

新型コロナウイルス感染症の影響により中止した海外留学に代わる、国際交流及び異文化理解活動を実施。

- ・ JICA関西を訪問して活動内容を学ぶとともに、海外派遣経験者からの体験を聴くなどのプログラムを実施
- ・ 大阪ユニセフ協会のボランティアによる講演会
- ・ シンガポール南洋女子高校とのオンライン交流



(2) 次年度に向けた留学派遣等の検討

2021年度は、留学派遣・受入れ及び短期語学研修を中止。次年度以降新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が改善された場合に備え、協定校への派遣準備を推進。

6 進路指導

(1) 2022年度大学入試 合格者数及び進学者数

	合格者数			進学者数		
	現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
国立大学	31	5	36	25	5	30
公立大学	8	2	10	6	1	7
甲南女子大学	74	5	79	17	0	17
他の私立大学	463	54	517	99	8	107
その他の大学	2	0	2	1	0	1
進学準備	—	—	—	24	0	24
合計	578	66	644	172	14	186

国公立大学医学部医学科合格者数3人（内1人既卒）

私立大学医学部医学科合格者数14人（内6人既卒）

関学、関大、同志社、立命館合格者数172人（内17人既卒）

(2) 基礎期における学習習慣の確立

本校でのあるべき学修方法を明確にして定着を図るため、入学時に『家庭学習の手引き』を配付し、各教科における家庭学習の方法を徹底。さらに、『スケジュール帳』を活用し、時間管理や学習計画の立て方を指導。



(3) 充実期における進路意識の涵養

高校生としての意識付けと学習習慣の確立を目的として、高校1年生スプリングセミナーを3日間にわたって実施。また、高校1年生の日々の過ごし方と大切さを知るため、卒業生による講話を設定。



(4) 「キャリア教育」の体系化

高校1年生のロングホームルーム(LHR)において、タブレットを活用し、学問分野ごとに大学での学びを研修してクラス内で発表。大学説明会は、オンラインにより26校の大学を招き実施。また、読売教育ネットワーク「早期医療体験プログラム」にオンラインで参加（大阪大学医学部）。

(5) 教科指導の充実

模擬試験直後に自己採点を実施し、振り返りについて指導。成績データの分析から、学期ごとに弱点分野の強化策を検討し実践。加えて、大学入学共通テストに向けた授業改善を推進。

また、受験勉強に必要な集中力の醸成と受験科目の実力向上を目的として、高校2年生を対象としたサマーセミナーを3日間にわたって実施。最後まであきらめない強さを身につけるため、卒業生による講話を設定。



7 生徒募集対策

広報活動

充実した教育環境や取組みを積極的に発信するため、中高WebサイトやYouTube公式チャンネルを活用。中高Webサイトでは、時代に応じたメディアの利用、生徒が施設を案内する動画などを掲載。YouTube公式チャンネルには、学校説明会の内容を分割したビデオを配信し、本校の歴史・教育内容・学校生活などを発信。

また、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、通常は年3回実施していた学校説明会について、実施形態を大幅に見直し。オンラインまたは人数制限による学校説明会と、小規模の学校見学会の実施に切替えて、計15回以上開催。さらに、校外説明会及び塾訪問には可能な限り足を運び、子供を育てる目線で甲南女子を伝える地道な広報活動を展開。



8 施設・設備

(1) 教育環境の整備（衛生管理・安全対策など）

- ・ 特別棟全室エアコンの新設
- ・ 本館エアコン室内機分解洗浄の実施（ドレンパン清掃など）
- ・ 学校外周における防犯センサーの設置
- ・ 西門前の土間コンクリート整備
- ・ 管理棟における屋上防水補修

(2) 美観向上及び脱炭素化の取組み

- ・ 図書館及び特別棟の外壁を塗装
- ・ 講堂のトイレ前及び食堂前の床材を更新
- ・ 資料室の意匠を更新
- ・ 本館屋上の太陽光パワーコンディショナーを更新

9 高大連携

(1) 中高生徒対象

甲南女子大学看護学科による中学3年生を対象とした衛生講話を実施。さらに、国際学部教授による、高校1年生「探求」授業内（福祉班）での講演を開催。

また、甲南女子大学医療栄養学部の学部説明会及び施設見学会を実施。

(2) 大学生対象

甲南女子大学人間科学部心理学科の「心理実習」として実習生を受け入れ、中高教員による講話を実施。また、高校1年生「自己探求」の授業へ参加。

10 部活動

安全かつ積極的な部活動の推進

文部科学省の「部活動ガイドライン」に基づく指導方針を遵守。活動時間の短縮された部活動において、活動計画の効率性を追求。

■アーチェリー部活動の様子



2021年度決算の概要

2021年度決算の概要

2021年度は新設した医療栄養学部が4年目となり、学生数が増加したため学生生徒等納付金収入が増加、また、円安が進んだことに伴い受取利息・配当金収入が増加しました。

一方、昨年度に支出したオンライン授業支援金の支出がなくなり、また新型コロナウイルスの感染拡大に伴い実習や旅費関連支出が減少しているため、2020年度に比べて経費が減少しました。その結果、基本金組入前当年度収支差額は9億6,395万円となり、事業活動収支差額比率は11.9%となりました。

事業活動収支決算の概要

事業活動収支計算は、当該年度の事業収入・支出を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、それぞれの収支の均衡状態を明らかにするとともに、学校法人の純資産の増減を表す計算書です。

					単位(千円)				
科 目		予算	決算	差異	科 目		予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,511,546	6,594,732	△ 83,186	特別収支	資産売却差額	0	0	0
	手数料	104,575	93,234	11,341		その他の特別収入	15,000	40,434	△ 25,434
	寄付金	0	17,479	△ 17,479		特別収入 計	15,000	40,434	△ 25,434
	経常費等補助金	659,850	810,389	△ 150,539		資産処分差額	20,000	58,609	△ 38,609
	付随事業収入	67,000	67,285	△ 285		その他の特別支出	0	0	0
	雑収入	87,303	101,186	△ 13,883		特別支出 計	20,000	58,609	△ 38,609
	教育活動収入 計	7,430,274	7,684,305	△ 254,031		特別収支差額	△ 5,000	△ 18,175	13,175
	人件費	3,858,948	3,789,642	69,306		予備費(※)	(0)		
	教育研究経費	2,534,129	2,423,075	111,054			50,000		50,000
	管理経費	935,462	849,260	86,202		基本金組入前当年度収支差額	231,195	963,951	△ 732,756
	徴収不能額等	0	0	0		基本金組入額	△ 643,709	△ 171,923	△ 471,786
	教育活動支出 計	7,328,539	7,061,977	266,562		当年度収支差額	△ 412,514	792,028	△ 1,204,542
	教育活動収支差額	101,735	622,328	△ 520,593		前年度繰越収支差額	5,366,801	5,366,802	△ 1
教育活動外収支	受取利息・配当金	184,460	359,798	△ 175,338	翌年度繰越収支差額	4,954,287	6,158,829	△ 1,204,542	
	その他の教育活動外収入	0	0	0					
	教育活動外収入 計	184,460	359,798	△ 175,338	(参考)				
	借入金等利息	0	0	0	事業活動収入 計	7,629,734	8,084,537	△ 454,803	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	事業活動支出 計	7,398,539	7,120,586	277,953	
教育活動外支出 計	0	0	0						
教育活動外収支差額	184,460	359,798	△ 175,338						
経常収支差額	286,195	982,126	△ 695,931						

※予備費の上段()内は使用額、下段は残高です。
使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

学校法人の本業である教育研究活動による収支を表している「教育活動収支」は学生生徒等納付金や手数料、寄付金、補助金等の収入の合計76億8,430万円から人件費、教育研究経費、管理経費の合計70億6,197万円を差し引いた結果、6億2,232万円の収入超過となりました。

財務活動による収支を表している「教育活動外収支」は受取利息・配当金のみの3億5,979万円であり、「教育活動収支」と「教育活動外収支」の合計である経常収支差額は9億8,212万円の収入超過となりました。

臨時的な収支を表している「特別収支」は現物寄付や施設設備に関する寄付金及び補助金による収入4,043万円から資産処分差額5,860万円を差し引いた結果(特別収支差額)1,817万円の支出超過となり、経常収支差額と特別収支差額の合計である基本金組入前当年度収支差額は9億6,395万円の収入超過となりました。

過去5年間の推移

単位（千円）

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	5,886,772	6,117,899	6,438,843	6,533,308	6,594,732
	手数料	115,023	122,894	129,267	101,071	93,234
	寄付金	70,574	51,852	68,364	34,816	17,479
	経常費等補助金	472,984	568,527	485,331	734,875	810,389
	付随事業収入	79,830	87,578	84,570	68,919	67,285
	雑収入	137,192	128,194	90,017	154,847	101,186
	教育活動収入 計	6,762,376	7,076,944	7,296,392	7,627,834	7,684,305
	人件費	3,718,889	3,829,665	3,763,619	3,884,341	3,789,642
	教育研究経費	1,759,357	1,987,985	2,144,999	2,658,636	2,423,075
	管理経費	758,705	737,823	907,207	848,196	849,260
	徴収不能額等	343	967	0	0	0
	教育活動支出 計	6,237,294	6,556,439	6,815,825	7,391,173	7,061,977
	教育活動収支差額	525,082	520,505	480,567	236,661	622,328
教育活動外収支	受取利息・配当金	150,339	195,579	238,225	255,418	359,798
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	150,339	195,579	238,225	255,418	359,798
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	150,339	195,579	238,225	255,418	359,798
経常収支差額	675,421	716,083	718,791	492,079	982,126	
特別収支	資産売却差額	2,023	4,565	0	0	0
	その他の特別収入	36,983	59,481	73,146	77,828	40,434
	特別収入 計	39,006	64,046	73,146	77,828	40,434
	資産処分差額	28,914	24,443	39,947	71,126	58,609
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出 計	28,914	24,443	39,947	71,126	58,609
	特別収支差額	10,092	39,603	33,199	6,702	△ 18,175
基本金組入前当年度収支差額	685,513	755,686	751,990	498,781	963,951	
基本金組入額	△ 3,808,904	△ 466,629	△ 586,255	△ 458,098	△ 171,923	
当年度収支差額	△ 3,123,390	289,057	165,735	40,683	792,028	
前年度繰越収支差額	7,994,716	4,871,326	5,160,383	5,326,118	5,366,802	
翌年度繰越収支差額	4,871,326	5,160,383	5,326,118	5,366,802	6,158,829	
(参考)						
事業活動収入 計	6,951,721	7,336,569	7,607,762	7,961,081	8,084,537	
事業活動支出 計	6,266,208	6,580,882	6,855,772	7,462,299	7,120,586	

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動に対する全ての資金の収入・支出の内容を明らかにし、かつ、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにする計算書です。

単位(千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,511,546	6,594,732	△ 83,186	人件費支出	3,825,791	3,768,614	57,177
手数料収入	104,575	93,234	11,341	教育研究経費支出	1,646,196	1,574,643	71,553
寄付金収入	15,000	43,279	△ 28,279	管理経費支出	868,591	792,603	75,988
補助金収入	659,850	819,504	△ 159,654	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	562,000	3,910,294	△ 3,348,294	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	67,000	67,285	△ 285	施設関係支出	266,542	177,312	89,230
受取利息・配当金収入	184,460	359,798	△ 175,338	設備関係支出	377,167	281,723	95,444
雑収入	87,303	100,843	△ 13,540	資産運用支出	3,565,000	4,713,999	△ 1,148,999
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	686,538	771,794	△ 85,256
前受金収入	1,016,780	973,121	43,659	予備費(※)	(0)		
その他の収入	2,740,135	537,987	2,202,148		50,000		50,000
資金収入調整勘定	△ 1,157,349	△ 1,176,892	19,543	資金支出調整勘定	△ 488,421	△ 568,741	80,320
前年度繰越支払資金	7,209,596	7,209,597	△ 1	翌年度繰越支払資金	7,203,492	8,020,835	△ 817,343
収入の部合計	18,000,896	19,532,782	△ 1,531,886	支出の部合計	18,000,896	19,532,782	△ 1,531,886

※予備費の上段()内は使用額、下段は残高です。
使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

収入は学生生徒等納付金収入や手数料収入、寄付金収入、補助金収入に資産売却収入(主に有価証券の満期償還)等を加えた123億2,318万円となりました。一方、支出は人件費支出や教育研究経費支出や管理経費支出に、施設設備への支出や資産運用支出等を加えた115億1,194万円となりました。収入から支出を差し引いた8億1,124万円が、支払資金の増加として前年度から繰越されてきた支払資金とあわせて80億2,083万円が翌年度に繰り越されま

過去5年間の推移

収入の部 単位(千円)

支出の部 単位(千円)

科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学生生徒等納付金収入	5,886,772	6,117,899	6,438,843	6,533,308	6,594,732	人件費支出	3,689,178	3,818,483	3,757,092	3,871,048	3,768,614
手数料収入	115,023	122,894	129,267	101,071	93,234	教育研究経費支出	1,134,525	1,207,537	1,324,747	1,810,694	1,574,643
寄付金収入	100,374	95,052	133,164	95,546	43,279	管理経費支出	707,553	682,014	850,338	791,175	792,603
補助金収入	472,984	568,527	487,561	740,668	819,504	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
資産売却収入	2,104,853	1,639,524	3,478,379	4,446,273	3,910,294	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	79,830	87,578	84,570	68,919	67,285	施設関係支出	3,061,585	253,922	424,561	515,395	177,312
受取利息・配当金収入	150,339	195,579	238,225	255,418	359,798	設備関係支出	884,118	210,380	429,640	193,130	281,723
雑収入	137,192	128,194	89,808	154,622	100,843	資産運用支出	3,686,733	2,857,352	4,036,426	5,021,304	4,713,999
借入金等収入	0	0	0	0	0	その他の支出	680,878	735,190	653,913	725,618	771,794
前受金収入	1,140,545	1,188,086	1,075,090	1,075,843	973,121	資金支出調整勘定	△ 524,709	△ 413,159	△ 527,395	△ 459,733	△ 568,741
その他の収入	4,338,512	876,637	336,948	427,361	537,987	翌年度繰越支払資金	6,251,267	6,688,741	6,978,494	7,209,597	8,020,835
資金収入調整勘定	△ 1,168,209	△ 1,230,777	△ 1,252,780	△ 1,199,292	△ 1,176,892	支払の部合計	19,571,128	16,040,459	17,927,816	19,678,228	19,532,782
前年度繰越支払資金	6,212,912	6,251,267	6,688,741	6,978,494	7,209,597						
収入の部合計	19,571,128	16,040,459	17,927,816	19,678,228	19,532,782						

貸借対照表の概要

貸借対照表は、年度末における学校法人の資産、負債、純資産（基本金及び繰越収支差額）を対照する計算書です。これまで学校法人が行ってきた活動の積み重ねの財政状況を表します。

資産の部				負債の部			
単位 (千円)				単位 (千円)			
科 目	2021年度	2020年度	差異	科 目	2021年度	2020年度	差異
固定資産	44,551,320	44,371,146	180,175	固定負債	1,178,096	1,157,068	21,028
有形固定資産	23,093,195	23,581,957	△ 488,763	退職給与引当金	1,178,096	1,157,068	21,028
土地	5,469,947	5,469,947	0	流動負債	1,837,581	1,835,557	2,024
建物	12,211,163	12,575,083	△ 363,920	前受金	973,121	1,075,843	△ 102,721
その他	5,412,085	5,536,928	△ 124,843	その他	864,460	759,715	104,745
特定資産	14,317,549	13,740,611	576,938	負債の部合計	3,015,677	2,992,625	23,052
その他の固定資産	7,140,577	7,048,578	91,999	純資産の部			
有価証券	7,016,111	6,910,582	105,530	単位 (千円)			
その他	124,466	137,996	△ 13,530	基本金	43,634,974	43,463,051	171,923
流動資産	8,258,161	7,451,333	806,828	第1号基本金	41,280,974	41,209,051	71,923
現金預金	8,020,835	7,209,597	811,238	第3号基本金	1,910,000	1,810,000	100,000
未収入金	100,826	123,726	△ 22,900	第4号基本金	444,000	444,000	0
その他	136,500	118,009	18,490	繰越収支差額	6,158,829	5,366,802	792,028
資産の部合計	52,809,481	51,822,478	987,003	翌年度繰越収支差額	6,158,829	5,366,802	792,028
				純資産の部合計	49,793,804	48,829,853	963,951
				負債及び純資産の部合計	52,809,481	51,822,478	987,003

2021年度末の資産総額は528億948万円でその内訳は有形固定資産230億9,319万円、特定資産143億1,754万円、その他の固定資産71億4,057万円、流動資産82億5,816万円となっており、昨年度から9億8,700万円増加しました。増加の主な要因は有価証券、特定資産の積立投資です。

一方、負債の総額は30億1,567万円とその内訳は固定負債11億7,809万円と流動負債18億3,758万円です。

また、基本金は第1号基本金が7,192万円増加し412億8,097万円、第3号基本金が1億円増加し19億1,000万円、第4号基本金は変わらずの4億4,400万円で総額としては436億3,497万円となりました。繰越収支差額は昨年度より7億9,202万円増加して61億5,882万円となっています。

過去5年間の推移

単位 (千円)					
科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	43,387,813	43,685,471	44,159,289	44,371,146	44,551,320
流動資産	6,421,254	6,837,389	7,105,180	7,451,333	8,258,161
資産の部合計	49,809,067	50,522,861	51,264,469	51,822,478	52,809,481
固定負債	1,126,066	1,137,248	1,143,775	1,157,068	1,178,096
流動負債	1,859,606	1,806,531	1,789,623	1,835,557	1,837,581
負債の部合計	2,985,671	2,943,779	2,933,397	2,992,625	3,015,677
基本金	41,952,070	42,418,699	43,004,954	43,463,051	43,634,974
翌年度繰越収支差額	4,871,326	5,160,383	5,326,118	5,366,802	6,158,829
純資産の部合計	46,823,396	47,579,082	48,331,072	48,829,853	49,793,804
負債及び純資産の部合計	49,809,067	50,522,861	51,264,469	51,822,478	52,809,481

財務比率の推移

事業活動収支計算書関係比率

単位 (%)

財務比率	算式 (×100)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学生生徒納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	85.2	84.1	85.5	82.9	82.0
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.5	1.5	1.9	1.3	0.6
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	6.8	7.7	6.4	9.3	10.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.8	52.7	50.0	49.3	47.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.5	27.3	28.5	33.7	30.1
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	11	10.1	12.0	10.8	10.6
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	9.8	9.8	9.5	6.2	12.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	9.9	10.3	9.9	6.3	11.9

貸借対照表関係比率

単位 (%)

財務比率	算式 (×100)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	94.0	94.2	94.3	94.2	94.3
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	3.9	3.9	3.9	3.7	4.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	345.3	378.5	397.0	405.9	449.4
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	6.0	5.8	5.7	5.8	5.7
前受金保有率	$\frac{\text{現金・預金}}{\text{前受金}}$	551.6	566.5	653.0	679.8	836.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.5	99.8	99.7	99.8	99.6
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	136.5	137.0	136.4	136.4	137.7

